

としょかん

いわて

岩手県立図書館報

2023.3 No.192

contents

目次

ページ

02

特集 電子図書館

矢巾町電子図書センター（矢巾町公民館図書室）

久慈市電子図書館について（久慈市立図書館）

いちのせき電子図書館及び電子的図書館サービスについて（一関市立図書館）

宮古市立図書館における電子図書館サービス（宮古市立図書館）

デジタルライブラリーいわて（岩手県立図書館）

国立国会図書館デジタルコレクションについて

12

県内図書館の活動紹介

奥州市立胆沢図書館

14

レファレンスコーナー

・インスタントコーヒーを最初に発明したのは日本人？

・南部藩は百姓一揆の発生数が日本一といわれるが、そのような状況だったにもかかわらず、取り潰しにならなかったのはなぜか？

16

児童コーナー わかば通信

すきなこと、みんなにおしえて！

17

図書館掲示板

第63回 岩手の読書週間 読書推進標語・手づくり絵本入賞者



令和元年(2019)6月、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(通称「読書バリアフリー法」)が施行されました。障害の有無に関わらずすべての人が自由に読書できる環境を整備するため、アクセシブルな電子書籍(音声読み上げ機能に対応した電子書籍など)を含む電子書籍貸出サービスの導入を検討する図書館も増えています。さらに、令和2年(2020)から続く新型コロナウイルス流行による社会状況の変化は図書館界にも大きく影響を与え、緊急事態宣言に伴って相次いだ図書館の臨時休館や制限開館から、非来館型サービスとしての電子図書館が大きく注目を集めました。

本特集では、岩手県内で電子書籍貸出サービスを導入している4つの図書館から、サービス導入によってどのような効果があったのか、どのような課題があるのか、導入後の状況や活用事例、周知や利用支援のための取り組みなどをお伺いしました。あわせて、岩手県立図書館で行っている地域資料デジタルアーカイブ「デジタルライブラリーいわて」の取り組みや、国立国会図書館の電子図書館事業「国立国会図書館デジタルコレクション」の活用例もご紹介します。

国立国会図書館の個人向けデジタル化資料送信サービスの開始や、図書館資料の複製物をメール等で送信できるようにする図書館等公衆送信サービス実施に向けての本格的な法・制度整備など、ネットワークを介した資料提供サービスへの需要や注目度が高まっている今日、デジタル化・ネットワーク化時代の図書館としてどのようなサービスが求められているのか、どのようなサービス提供が可能なのか、今後の参考にしていただければ幸いです。



《矢巾町公民館図書室》 矢巾町電子図書センター

導入開始時期：平成29年(2017)8月

導入システム：Rakuten Over Drive

■ はじめに

矢巾町では、平成29年(2017)8月26日から、矢巾町図書センターにおいて電子図書のサービスを実施しています。昨今、スマートフォンやタブレットの普及により、読書離れが進んでいます。デバイスが変化していく中で、矢巾町としてもそ

こに何かできないだろうかという考えがあり、電子図書館を導入しました。様々な理由で図書センターに行くことができない方でも、自宅や外出先で図書センターを利用することができます。スマートフォンなどの端末があれば、24時間どこにいても読書をすることができるほか、自動で返却になるため、返却に伴うトラブル等の心配がありません。よって、電子図書サービスの導入により、より広い層に対して読書環境を提供できるようになりました。

■ 矢巾町電子図書センター

矢巾町電子図書センターの特徴は、多言語書籍が充実している点です。ネイティブの外国人が朗

読した音声収録されている電子書籍があり、『はらぺこあおむし』や『スイミー』、『ドクターズ』等の日本語に翻訳されている絵本の原作が多々あります。これらの電子書籍を配架し、子どもたちが英語に触れることのできる機会を提供しています。矢巾町では、電子図書サービスの提供により、多言語教育をサポートし、子どもたちがグローバル社会の中で活躍していくきっかけになることを期待しています。

紙媒体書籍と電子書籍では、それぞれ違う魅力と特徴があります。電子書籍だからこそ便利に利用できる分野もあります。電子図書センターでは旅行や料理などのジャンルの書籍が豊富です。旅行本を何冊も持ち歩いて旅行するのは大変ですが、電子書籍の旅行本であれば、スマートフォン1台で簡単に持ち歩くことができます。また、子育て中の方であれば、小さいお子さんを連れて図書館に行き、ゆっくり本を選ぶことが難しいと思われれます。電子図書を利用することで、自宅で空いた時間に読書を楽しむことができます。そのため、当電子図書センターでは育児の悩みに応える本など、子育て世代向けの電子書籍も多数配架しています。電子図書の利便性が広く周知され、読書環境の充実につながることを期待しています。

■ 電子図書おはなし会

矢巾町図書センターでは、毎年「電子図書おはなし会」を開催しています。「英語の読み上げ機能付き電子図書」をプロジェクターでスクリーンに映し出し、機械音声の読み上げ終了後、同じ絵本の原書を職員が日本語で読み聞かせをするバイリンガル形式を取り入れています。職員は地域の特性や当日参加者の年齢・家族構成等を見ながら、あらかじめ用意した4タイトル前後の作品の中から当日のプログラム2タイトルを選び、読み聞かせをしています。参加者は家族5組、合計10～15名ほどであることが多く、これまで多くの子どもたちに電子図書の読み聞かせをしてきました。大画面のスクリーンで見ること、絵本の迫力が増し、電子図書おはなし会ならではの特別

感に子どもたちは魅力を感じているように見受けられます。



電子図書おはなし会の様子

■ 矢巾町電子図書センターのこれから

近年、タブレット端末が学校に普及していることを受け、全国では、学校の読書活動で電子図書を取り入れ始めており、電子図書が教材としての役割も担うようになってきています。読書として、教材として、ますます活用されていく電子図書が、年齢に関係なく幅広い世代に親しまれていくことを期待しています。

「コロナ禍で図書館を利用する回数を減らさざるを得なかったものの、電子図書センターへ登録することで子ども向けの絵本の読み聞かせに役立っている」という感想も、町図書センターに実際に寄せられています。今後さらに電子図書の需要が上がり、これまで読書とは縁がなかった層にも利用していただけるよう、読書環境の充実にも努めていきます。

(矢巾町文化スポーツ課 主事 工藤祐奈)



《久慈市立図書館》 久慈市電子図書館について

導入開始時期：令和2年(2020)9月

導入システム：LibrariE&TRC-DL

電子図書館とは、インターネット上で図書資料を貸し出すサービスのことです。通常の図書館と比較した場合、運用上のメリットとしては、電子化された本や雑誌をインターネット経由で借りられるようになるほか、書籍といってもデータを扱うプラットフォームなので、独自に資料化された音声データや動画なども利用できるという点が挙げられます。

ここでは、久慈市立図書館で運用している電子図書館についてご紹介いたします。

■「久慈市電子図書館」について

久慈市立図書館に電子図書館を導入した経緯として、①スマートフォンやタブレット等の身近な端末を介することで、読書から離れていた方に本に親しむきっかけを提供できる、②文字サイズの変更機能や音声読み上げ機能が付いているため、視覚や聴覚に障害のある方に向けたアクセシビリティサービスを提供できる、③非来館型のサービスとして久慈市立図書館利用の裾野を広げることが出来るという期待から、図書館の新館移転に合わせて電子図書館の名称を「久慈市電子図書館」と定め、令和2年(2020)9月1日にサービスを開始しました。

電子図書館開始の頃は、ちょうど新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて座席数等を制限していた時期でしたが、新聞や広報誌に掲載していただいたこともあり、当初から多くの方に興味を持っていただけたと感じております。

久慈市立図書館では、対象となるお客様が図書館の利用を申し込んだ際に、電子図書館サービスもあわせて案内していますが、「必要ないです」と電子図書館の利用を断る方も一定数おり、電子

書籍にハードルの高さを感じている方も多いのかもしれませんが、しかしながら、実際に利用している方から操作方法を聞かれたことはほぼ無く、使い方自体は簡単であると感じております。今後も多くの方に利用していただけるよう、案内と周知に努めていきたいと思っております。

※ 久慈市電子図書館の利用登録には、久慈市在住または在勤で、久慈市立図書館の利用者カードを作成する必要があります。登録後は、交付されたIDとパスワードでログインすることで利用できます(5冊まで、2週間)。



久慈市電子図書館の案内ポスター

■ 導入后感じた電子図書館のメリット

導入して2年余り経過しましたが、お客様からは「来館しなくても本を借りられるのがいい」「夜中や休館日でも、読みたい時に読めるようになったのが便利」という声をいただいております。



電子図書館の利用イメージ

電子図書館は、利用者がパソコンやタブレット(スマートフォン)等のインターネットに接続できる環境があれば、誰でも本を借りて読むことが

出来ます。これを言い換えれば、本を読むまでの時間の短縮、つまり「読書」へのアクセスが早くなったということに他なりません。新型コロナウイルス感染症の感染拡大と自粛生活という観点から見ても、外出することなく読書を楽しむことや、使う道具は全て自分のもので完結するため、衛生面で安心できる点も、メリットのひとつです。

■ 利用層について

本の選定に関しては、LibrariE & TRC-DL が取り扱っている電子書籍より、一般図書・児童図書・絵本・洋書等をお客様の要望にお応えできるよう幅広く収集しています。これは、久慈市の資料選定基準にも則った考えとなります。

久慈市立図書館の年齢別利用率を見ると、50代以上が全体の約4割を占めています。これに対し、電子図書館では50代以上が全体の約7割となっており、利用者層が実際の図書館から電子図書館に単純にシフトした、というわけではないことがわかります。サービス開始当初は、利用者のボリューム層を30代と考えておりましたが、30代は全体の10%となっており、想定とは異なる利用者層に多く使われていました。

このほか、令和3年(2021)には児童書をまとめて購入し、読み聞かせ用絵本もラインナップに加えました。子育て世代の保護者が自分の子どもに読み聞かせをする場面を想定して所蔵したのですが、令和5年(2023)現在でも絵本が貸出ラ

キング上位に入っており、一定以上の利用があると手応えを感じています。

■ まとめ…久慈市電子図書館のこれから

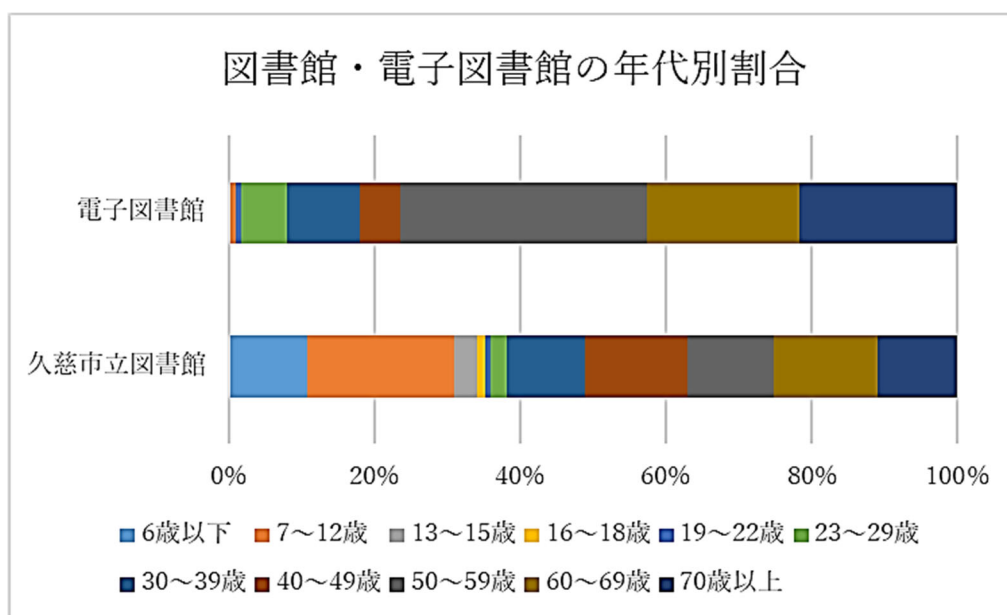
久慈市電子図書館に期待されている機能の一つに、独自資料があります。これは、その図書館が独自に電子化した資料のことです。久慈市や地域の団体が作成・発行した資料を、デジタルデータとして登録することができるのです。

現在、久慈市立図書館では独自資料の導入について調整中です。予定しているものとしては、市内の観光案内施設が発行するポスターやパンフレットなどを登録し、歴代のものを通覧できるようにするなど、アーカイブとしての側面を出していきたいと考えています。

また、独自資料の公開範囲については、電子図書館登録者に限らず、誰でも閲覧可能とすることで、より多くの方に見ていただく形を検討しています。

久慈市電子図書館は、従来の電子書籍のほか、多くの独自資料も載せることで、将来的には久慈市の魅力を発信できる場所となることを目指しています。久慈市に「第三の新しい図書館」が出来たと思っていただけるように、これからも充実した電子図書館づくりに努めていきます。

(久慈市立図書館 菊池晃成)





《一関市立図書館》 いちのせき電子図書館及び 電子的図書館サービスについて

導入開始時期：令和2年(2020)12月
導入システム：LibrariE&TRC-DL

■ 一関市立図書館概要

一関市は岩手県南に位置し、人口約11万人(令和5年(2023)1月現在)、面積は1,256平方キロメートルあります。一関市立図書館はこの広い市域に対し、8つの図書館と3台の移動図書館による全域サービスを行っています。図書館までの遠さ、冬季の積雪、通勤通学に時間がかかる、在宅高齢者の割合が高いなどの市の特徴から、非来館型サービスの充実が求められていました。

■ 『いちのせき電子図書館』 概要と実績

いちのせき電子図書館
Ichinoseki Digital Library



『いちのせき電子図書館』は令和2年(2020)12月1日にサービスを開始しました。従来より求められてきた「いつでも、どこでも」利用できる非来館型サービス、及び読書バリアフリー法への対

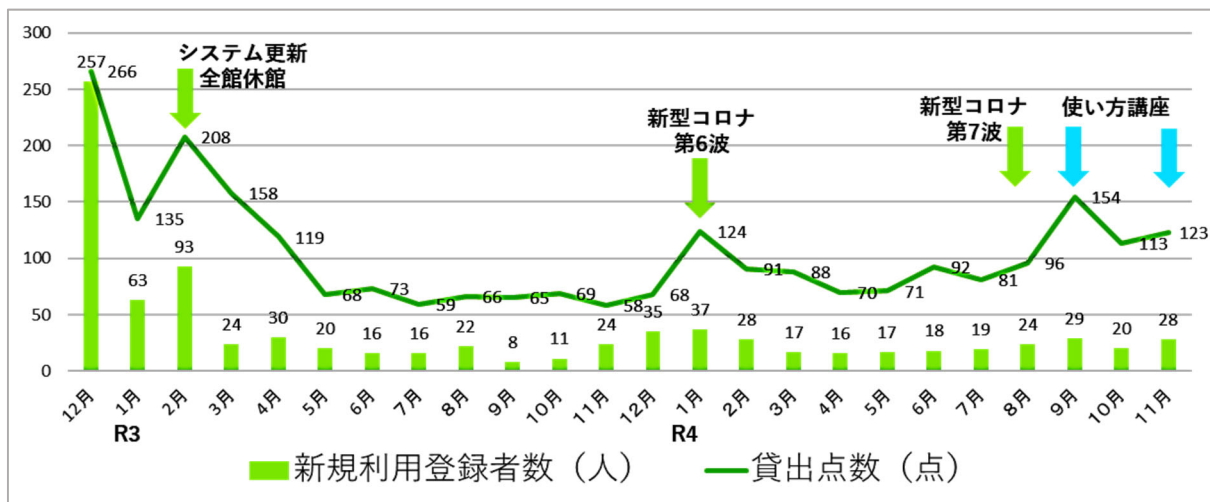
応として、電子的図書館サービス(オンラインデータベースの整備、郷土資料の電子化など含む)の一環として導入しました。市内在住・在勤・在学の方が対象で、当初コンテンツ数は約400点、令和5年(2023)1月現在は2,391点です。

○ 2年間の利用実績

導入開始後2年間(令和2年(2020)12月～令和4年(2022)11月)の総登録者数は867人、総貸出点数は2,515点です。導入直後は登録者数・貸出点数ともに多く、その後は新型コロナによる岩手県独自の緊急事態宣言期間などに利用が多い傾向にありました。また、後述の使い方講座の開催後、令和4年度(2022)後半の貸出点数は前年度のほぼ倍となりました。年代別の貸出割合では、働く世代、子育て世代にあたる30代から50代までの利用が多く(62.9%)、また60代以上の利用も予想以上にありました(27.7%)。20代以下の利用が少なく(9.1%)、特に児童生徒への利用促進が課題となっています。また、利用時間帯別の貸出割合は、図書館開館時間内(55.3%)、開館時間外(44.7%)でした。

○ 使い方講座の開催

利用者登録率が低いこと、図書館協議会などで要望があったことから、普及促進のため「いちのせき電子図書館使い方講座」を開催しました。デジタルに不慣れな方を想定し、図書館ホームページの使い方併せて紹介する内容とし、図書館や市民センターを会場に令和4年度(2022)全3回



いちのせき電子図書館利用実績

開催したところ、小学生から70代まで10組14名の参加がありました。



使い方講座の様子

当日は持参いただいたスマホやタブレット、または図書館で用意したiPadを操作し、無料Wi-Fiへの接続、電子図書館へのログイン、電子書籍の検索、借りる・読む・返すまでを体験していただきました。ひとりひとりが好きな一冊を見つけ、デジタルならではの様々な読み方を楽しむ「成功体験」を味わってもらうこと、また具体的な利用シーン（病院の待合室で…など）が思い浮かぶような講座を心掛けました。

講座を開催して初めてわかったことがあります。まず、ご家族同士の参加であってもそれぞれお持ちの端末が異なり、デジタル機器の習熟度も様々であること。当日はまさに「手取り足取り」の講座となりました。また、デジタル機器に不慣れな方が「挑戦したい」という気持ちで参加されていたこと。熱心にメモを取り「自分の端末で操作できるようになりたい」と懸命に取り組まれる姿に、生涯学習への高い意欲を感じ、図書館がデジタルデバイス解消に取り組む意義を実感しました。

更に、使い方講座を開催して初めて「電子図書館のレファレンス」が発生しました。このことからの気づきは大きく、これまで(操作方法を除いて)ほとんど問い合わせがなかったのは、問い合わせに至る前に諦めてしまった利用者があることを示すのではないかと。司書の顔が見えて初めてレファレンスが発生した、つまりデジタルデバイドの解消には人の力、親しみやすさがやはり有効だということ。紙資料と同様に司書は電

子書籍にも精通し、蔵書を把握していなければならないこと。など、電子図書館がまだまだ「図書館」としての機能を果たせていないことを痛感する出来事でした。

使い方講座の参加者はその後も図書館へ問合せをくださるなど、継続して利用いただいている様子です。「手取り足取り」の講座のため少人数での開催にならざるをえませんが、地域に電子図書館の利用者、応援し宣伝してくれる人を増やすという意味でも大変効果のある取組みだと感じています。

■ そのほかの電子的図書館サービス

- ・ 地域資料をPDF化し館内公開(584点)
- ・ 岩手日報データベース、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、ナクソス・ミュージック・ライブラリーなど各種データベースの充実(10種類)
- ・ マルチメディアDAISY資料の購入(110点)など

(いずれも令和5年(2023)1月現在)

■ 課題と今後の取組み

いちのせき電子図書館の登録者数はまだまだ少なく、全体的な利用促進が一番の課題です。今後は特に登録の少ない児童生徒へ向けて、小中学校児童生徒の一人一台タブレットの配置に合わせた利用を働きかける予定です。また、地域での使い方講座を継続し、デジタルデバイドの解消と「顔が見える図書館」としての普及を図ります。

電子書籍には保存、書誌の充実度、資料数、ジャンル数など様々な課題があります。利用者の資料要求に応えるには現在のところ不十分ですが、図書館本館や移動図書館も合わせ、地域の生涯学習を支えていきたいと考えています。

(一関市立一関図書館 主任司書 舩屋藍)



「宮古市立図書館」 宮古市立図書館における 電子図書館サービス

導入開始時期：令和 4 年(2022)10 月
導入システム：LibrariE & TRC-DL

宮古市立図書館では、令和 4 年(2022)10 月 1 日から電子図書館サービスを開始しました。

■ 宮古市電子図書館の概要

【利用対象】

宮古市に在住・在勤・在学している方で宮古市立図書館に登録がある方

【貸出冊数／貸出期間】

一人 3 冊まで／14 日間

【予約冊数／取り置き期間】

一人 2 冊まで／7 日間

【コンテンツ数】(1 月 31 日現在)

908 冊(一般向け 574 冊／子ども向け 334 冊)

■ 導入経緯

当館では次の 2 つの理由から電子図書館サービスを導入することになりました。

① 図書館への来館が困難な方・視覚等に障害のある方へのサービス向上

宮古市立図書館は本館のほか移動図書館車 2 台と分室 3 室で図書館サービスを提供しています。しかし、身体が不自由なため来館が難しい方、仕事の都合で利用できない方へのサービスがありませんでした。また、視覚等に障害がある方への図書館サービスも十分ではありませんでした。

電子図書館の導入により、読書機会の拡充や音声読み上げ機能に対応した電子書籍の導入によるサービス向上を図りたいと考えました。

② 「非来館」「非接触」のサービス提供

新型コロナウイルス感染者数の増加や国や県の緊急事態宣言に伴う図書館サービスの制限により、令和 2 年(2020)から 3 年(2021)にかけて図書館の利用は大きく減少しました。

コロナ禍でもより多くの方に安心して読書を楽しめる環境を整備したいという考えから、「非来館」「非接触」で読書に親しめる電子図書館サービスの導入につながりました。

■ 現在の利用状況

1 月 31 日現在の登録者数・貸出冊数は下記のとおりとなっています。

<登録者数>

月	10 月	11 月	12 月	1 月	合計
登録者数	205	48	21	30	304

<貸出冊数>

月	10 月	11 月	12 月	1 月	合計
貸出冊数	316	184	132	133	765

サービス開始直後は普段当館を利用している方だけではなく、初めて図書館を利用する方や数年ぶりに図書館を利用するという方からも申し込みがありました。市の広報やホームページ、SNS、ポスターなど様々な媒体で周知を行ったことで、より多くの方が関心を持ってくれたことが最初の登録数につながったのではないかと感じています。現在は月に約 30 件の新規申し込みを受けています。

貸出冊数についても、サービス開始の 10 月は 316 冊、現在は月に約 130 冊の貸出しとなっています。年齢・性別ごとの貸し出し状況を見ると、当館では 30 代～50 代の女性の利用が多く、貸出冊数の約 60%を占めています。しかし、図書館の利用が少ない中高生から 20 代は電子図書館も同様に利用が少ない状態となっています。

いつでも、どこでも
電子書籍が借りられる！

宮古市電子図書館

サービス開始日：10月1日(土)午前9時



○電子図書館とは？

インターネットを通じて、パソコン・スマートフォン・タブレットから、いつでもどこでも電子書籍の貸出しを受けられるインターネット上の図書館のこと。

○利用できる人

宮古市に居住・通勤・通学している方で、宮古市立図書館に利用登録している方。

○申込方法

宮古市立図書館・各分室の窓口にて申込用紙を提出、もしくは宮古市公式ホームページの申請フォームから申し込みをしてください。

申し込み後にIDと初期パスワードを発行します。

○問い合わせ先

宮古市立図書館 電話番号：0193-62-2414

電子図書館サービス周知のポスター

■ 今後について

電子図書館サービスはまだ開始したばかりで、手探りの状態で運営を行っています。

その中で、課題と感じていること、今後取り組んでいきたいことは次の通りです。

① 中高生から 20 代の利用者の増加

利用の少ない中高生から 20 代の利用を増やしていくためにも、どのようなコンテンツに需要があるのかニーズを把握し、反映させていく必要があると感じています。

② 継続した電子図書館の利用

電子図書館に興味を持って利用を始めた方も多くいるなかで、一時的な利用ではなく継続して電子書籍での読書を楽しんでもらえるような取り組みを実施してみたいと考えています。

(宮古市立図書館 三浦花菜子)

〈岩手県立図書館〉 デジタルライブラリーいわて



公開開始時期：平成 23 年(2011)5 月

公開システム：図書情報システムをカスタマイズ

岩手県立図書館では、所蔵する古文書・古記録・古絵図等(以下、古文書等)の資料をデジタル化して公開する場として、「イーハトーブ岩手電子図書館」と「デジタルライブラリーいわて」の 2 種類があります。

■ イーハトーブ岩手電子図書館

「イーハトーブ岩手電子図書館」は、平成 9 年(1997)から同 12 年(2000)にかけて実施された高度情報化推進事業(古文書・石川啄木・宮沢賢治関係資料のデジタル化事業)によって構築・公開されたものです。当館で所蔵している古文書等の中でも重要度の高い貴重書に指定されている資料を中心に収録しています。しかし、当時は今ほどネット回線が発達しておらず大きなデータの読み込みには時間がかかったため、公開されている画像データはファイルサイズの小さい低解像度のものになっています。資料によっては文字が読めないものもあり、判読可能なレベルの高解像度画像を閲覧するためには、岩手県立図書館に來館して CD-ROM 版を利用する必要がありました。

■ デジタルライブラリーいわて

「イーハトーブ岩手電子図書館」の不便を解消するために作られたのが「デジタルライブラリーいわて」です。平成 22 年度(2010)に(公財)図書館振興財団の助成を受けて基盤部分を整備し、翌 23 年(2011)の 5 月に公開されました。当館で使用している図書情報システムの WebOPAC 機能を拡張し、書誌検索機能とデジタル画像の表示機能を連携させています。

平成 23 年度(2011)には、東日本大震災で沿岸地域資料の需要が高まったことを背景に再度財団の助成を受けて近世三陸沿岸の測量絵図や村絵図を中心に古絵図 27 点をデジタル化。しかし、

「デジタルライブラリーいわて」に搭載されている画像ビューアは、仕組み上、絵図のような大判かつ細密な画像の表示には向いておらず、表示方法については課題が残りました。

現在、絵図の表示は Web ベースの高精細画像ビューア「Zoomify」のフリー版を暫定的に使用しています。大きな画像をタイル状に分割し、必要な部分のデータのみを読み込むため、サイズの大きい画像データでもストレスなく拡大縮小表示できることが特徴です。作成した表示用データをホームページ上にアップロードし、書誌データの一次情報リンク機能を利用して URL と紐づけることで、「デジタルライブラリーいわて」の資料詳細画面からビューアページを呼び出すことができるようになっていました。一つ一つ手作業になるため大量処理には向きませんが、システムの標準機能と無料提供されている画像ビューアをうまく活用することで、低コストでのデータ公開を実現しています。



Zoomify を利用した高精細画像ビューア
（「高田村絵図」 高田松原部分を拡大表示）

■ ウェブ企画展での活用

岩手県立図書館では、平成 19 年度(2007)から 29 年度(2017)にかけて、当館所蔵の古文書等を中心に紹介する企画展「いわての歴史シリーズ」を開催しました。このうち、岩手の自然とそこに暮らす人々に関する資料を取り上げたシリーズ「いわてに生きる」全 4 回を、ウェブ版企画展としてネット公開しています。電子版図録として活用できるよう、展示資料の画像や解説文、目録を掲載したほか、「デジタルライブラリーいわて」に収録されている資料については該当ページへのリンクを張り、実際に資料を閲覧することができるようになっています。キーワード検索や分類

から探す方法だけでなく、企画展のテーマに合わせた様々な切り口から資料にアクセスする道筋を用意することで、より身近に、そして気軽にデジタルアーカイブの資料に触れてもらうことが狙いです。

ウェブ企画展の内容をもとにしたレファレンスを受けることもあり、一定の効果があったのではないかと考えています。

■ コロナ禍の中で

コロナ禍の影響で外出自粛が続いた令和 2 年度(2020)は、直接来館が困難となったため、郵送複写サービスの利用が急増しました。しかし、古文書等は資料保存の観点からコピー機での複写には原則として対応しておらず、そういった中で活躍したのがデジタル化資料です。「デジタルライブラリーいわて」の紹介のほか、希望があれば画像データをメールでお送りしました。デジタル化を進めておいて良かったことの一つです。一方で、デジタル化されていない資料の場合ご希望に応えることができず、歯痒い思いもしました。

■ 今後について

当館にはまだデジタル化されていない貴重な資料が多く残っています。これらのデジタル化を進め、コンテンツの拡張を図っていく予定です。

また、現在使用しているシステムや画像ビューアは、資料の検索機能、画像の拡大縮小など必要最低限の機能は備えているものの決して使い勝手のいいものとはいえず、利用者の様々なニーズに対応できるようなプラットフォームの整備は大きな課題として残っています。

地域資料のデジタル化は、原資料へのアクセスを減らして資料の劣化を最小限にとどめるとともに、デジタルデータをネット上で提供することで、距離や時間の制約無く資料が利用できるようになるというメリットがあります。この地域資料の保存と利用は、図書館の大切な役割でもあります。地域の記録を残し伝える図書館として、今後もデジタルアーカイブの充実を図っていきたいと考えています。

（岩手県立図書館 多田香恵）



国立国会図書館デジタル コレクションについて

国立国会図書館は、令和4年(2022)12月21日に、所蔵資料をデジタル化した「デジタル化資料」約311万点と収集した「電子書籍・電子雑誌等」約150万点を検索・閲覧・視聴できる「国立国会図書館デジタルコレクション」(以下「デジタルコレクション」)をリニューアルしました。

さまざまな情報が、より探しやすい、より閲覧しやすくなったデジタルコレクションを、郷土のレファレンスを例にご紹介します。



国立国会図書館デジタルコレクション トップページ
(<https://dl.ndl.go.jp>)

■ 活用事例① 山奈宗真がまとめた三陸 大津波の調査記録を読みたい

明治29年(1896)に発生した明治三陸地震津波の被災地を踏査した遠野の起業家・山奈宗真は、『岩手県沿岸大海嘯取調書』など7点の資料を帝国図書館(現国立国会図書館)に寄贈しています。

『岩手県沿岸大海嘯部落見取絵図』には、県内の6郡37町村の津波被害が168カ所分の絵図として記録されています。海岸線、道路、水路、地名、寺社、方位が入った地形見取り図の中に、津波の浸水域・侵入経路・被害の特徴等や流出物などが丹念に書き入れられているのが特徴です。

出版年の古い資料だけでなく、東日本大震災に関する資料等も数多くデジタル化されています。

■ 活用事例② 後藤新平が行った「政治 の倫理化」運動について知りたい。

晩年の後藤新平は、政界腐敗や党利党略に翻弄される政党政治を批判し、「政治の倫理化」運動による政治改革を訴えて全国を遊説しました。後藤の講演は、いずれの会場でもたいへんな人気を博したといわれています。

デジタルコレクションで、「政治の倫理化 後

藤新平」で検索すると、「歴史的音源(れきおん)」に音声資料が収録されていることがわかります。「歴史的音源(れきおん)」には、岩手県関係の音源として、板垣征四郎、斎藤実、米内光政の演説や、「南部牛追い歌」「沢内甚句」などの民謡も収録されています。本から得られる知識だけでなく、実際の演説を「聴く」という体験から、深い学びの過程が実現できるのではないのでしょうか。

このほか、「便利ツール」のページには、デジタルコレクションに収録しているデジタル資料を、多様な切り口から検索できるさまざまなツールが紹介されています。

■ 個人向けデジタル化資料送信 サービス

令和4年(2022)5月19日から開始 国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難なものを、個人の端末(パソコン・タブレット等)からアクセスできるサービスです。令和5年(2023)1月18日から、印刷機能も利用できるようになりました。

サービス対象となる資料は、図書館向けデジタル化資料送信サービス(図書館送信)の範囲内の資料で、図書約54万点、明治期以降の貴重書等の古典籍資料約2万点、明治期以降に発行された雑誌約82万点等、合計152万点(令和4年(2022)8月時点)が対象となります。

利用するためには、国立国会図書館の登録が必要です。利用者登録は、オンラインで手続きが可能です。

■ おわりに

個人向けデジタル化資料送信サービスの開始は、「著作権法の一部を改正する法律(令和3年法律第52号)」が施行されたことによります。法改正の背景には、デジタル化・ネットワーク化への対応とともに、コロナ禍により図書館等に来館せず利用できるデジタル化資料へのニーズが高まったことが挙げられています。

デジタル化資料は、相互貸借等の図書館業務の効率化にもつながります。利用者の利便性の向上に、ぜひご活用ください。

(岩手県立図書館 岩持河奈子)

県内図書館の活動紹介

県内各地の図書館から特徴と活動をご紹介します

奥州市立胆沢図書館

所在地：〒023-0401 奥州市胆沢南都田字加賀谷地1番地1 胆沢文化創造センター内

TEL: 0197-46-2133 FAX: 0197-46-2135 Email: tosho-is@city.oshu.iwate.jp

現館建築年月：平成3年4月 延べ床面積：510㎡



図書の蔵書冊数： 74,455 冊 (令和4年4月1日現在)

年間来館者数： 31,233 人 (令和3年度)

年間登録者数： 2,751 人 (令和3年度)

開館時間	午前9時30分～午後7時00分			
休館日	・月曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日 ・年末年始(12月28日～1月4日) ・蔵書整理期間			
登録範囲	1 市内に在住または通勤通学している方 2 館長が特に認めた場合 (1) 近隣市町(北上市、一関市、平泉町、金ヶ崎町、住田町、西和賀町)に在住する方 (2) 奥州市出身で帰省した方 (3) 災害により奥州市に一時避難した方			
貸出点数・期間		点数(点)	期間(日)	延長
	図書・視聴覚資料	20 (視聴覚資料は3点まで)	14	可

奥州市立胆沢図書館の特徴と活動

はじめに

平成3年1月、胆沢町の社会教育の振興を図るため文化会館、図書館及び郷土資料館の複合施設として胆沢文化創造センターが完成しましたが、胆沢町立図書館は同年4月に開館し、市民への図書館サービスの提供を開始しました。それ以前も地区の公民館図書室と巡回図書館による本の貸出を行っていましたが、図書館ができたことにより、蔵書数も増え快適な読書環境が整いました。

平成18年2月には、市町村合併に伴い奥州市立胆沢図書館となり、現在では市内4館と1図書室がオンラインで繋がっているため、どこで借りても、どこに返してもOKという状況になりました。図書館の延べ床面積は510㎡で、文化創造センター1階にあり、この頃は「猫ノ図書館」としても親しまれています。

運営について

奥州市内の図書館及び図書室は全て直営ですが、胆沢図書館は、館長を含め8人の職員で運営しています。

特色のある魅力的な図書館を目指して、展示方法を工夫するなどしています。入り口に入って直ぐの利用者の目に付きやすいスペースで企画展を開催しています。メジャーリーガー大谷翔平選手のコーナーは、書架にも常設していますが、現在は規定打席&規定投球回達成を記念して、企画展コーナーでも紹介しています。また、話



▲「二刀流大谷翔平選手」応援企画展

題になっている旬な情報をいち早く紹介するため、常設コーナーを館内の所々に設けています。本は極力面出して展示するよう努めるなどの工夫もしています。

猫ノ図書館開設とねこ館長

館内の猫本を集めて館内の一角に「猫ノ図書館」を平成29年2月22日（猫の日）に開設しました。猫ブームを受け利用低迷から脱却するための起死回生プロジェクトとしてのものでした。ねこ館長（むぎ）の写

真と猫の写真を猫本約2,000冊と一緒に展示しています。むぎ館長の出勤日は不定期ですが、「今度はいつ来るの？」と聞かれることもしばしばで、皆さんから気にかけていただいています。

「猫本専門 神保町にゃんこ堂」がアドバイザーですが、サラリーマン猫写真家「あおとり」さんとの縁結びをいただくなど御尽力いただいた結果、猫ノ図書館の知名度がUP！し、全国の猫好きの来館や問合せ、TV取材等ミラクルな出来事が続きました。



▲書架一面を使用した「猫ノ図書館」

今年は6周年記念イベントとして「あおとり」さんが猫の「気ままな瞬間」を捉えた写真パネルを展示して「気まま猫展」を開催しています。ついこの間は、盛岡出身の絵本作家でイラストレーターでもある品田紗桜里さんの絵本「もりねこ」の原画展を開催していました。開催初日には本人も来館され製作に当たったのエピソードなどを聞くことができましたし、本人も久しぶりの岩手入りで大変盛り上がりしていました。

ボランティアグループと連携した読み聞かせ

ボランティアグループの協力を得て読み聞かせにも力を入れています。館内にある窓際の絵本コーナーでの読み聞かせも行っていますが、複合施設としての強みを生かし文化会館の小ホールを使った大掛かりな読み聞かせを行っています。スライド機器を駆使しての読み聞かせや、体を目一杯動かしてのラーメン体操や手遊びをして大いに盛り上がります。また、ハロウィンに合わせて行う読み聞かせは夜に行いますので、参加者が思い思いの仮装を身に着け華やかで賑やかなイベントになります。

これからも静けさと、賑やかさが程よく溶け込んだ読書環境を利用者の皆様に提供しつつ、良書を皆さんの手に届けられたらと考えています。

（奥州市立胆沢図書館 担当：佐々木）

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

Q. インスタントコーヒーを最初に発明したのは日本人？

【キーワード】

インスタントコーヒー ソルブルコーヒー 加藤サトリ(サトリ)

【調査プロセス】

1. 食の起源に関する参考資料を調査。
2. 人物事典で「加藤サトリ(サトリ)」を調査。
3. コーヒーに関する資料を調査。



【回答】

私たちの生活に身近で便利な飲み物、インスタントコーヒーに日本人が関係していたとは初耳です。

まずは、『たべもの起原事典』でインスタントコーヒーの項目を確認すると、“戦後、世界中に普及したインスタントコーヒーの開発者が日本人であることは、意外に知られていない。1899年にシカゴ在住の化学者・加藤サトリ博士が発明する。”とあります。

次に『日本食文化人物事典』を確認すると「活動分野別名簿」の「コーヒー」の項目に「加藤サトリ(インスタントコーヒー)」がありました。『たべもの起原事典』とほぼ同様の内容に加え“彼がどのような経歴の人物であったかについては不明である。”とあります。

さらにコーヒーに関する資料を確認すると、『図説コーヒー』に“1899年、加藤サトリがコーヒー液を濃縮し粉末にするという方法を発明した。(中略)特許は1903年に取得されたが、量産にはいたらなかった。”とあります。また、加藤の発明より10年ほど早い、1890年にニュージーランドのデイビット・ストラングが特許を取得したのが先という説があることがわかりました。

『ビジュアルスペシャルティコーヒー大辞典 2nd Edition』では“最近までインスタントコーヒーの発明者は彼(加藤)と信じられてきた。現在ではデイビット・ストラングが発明していたことがわかっている。”とあります。

『コーヒー学入門』によると、“博士(加藤)はまず、可溶性の茶(ソルブル・ティー)を発明し、それをコーヒーでも実験し、「ソルブル・コフィー」(可溶コーヒー)として売り出した。”とあります。

最初にインスタントコーヒーを発明したのはデイビット・ストラングでしたが、加藤もほぼ同時期に紅茶やコーヒーをインスタントにする技術を開発していたことがわかりました。今では世界中で飲まれ親しまれているインスタントコーヒーに、日本人が関わっていたと知り、誇らしい気持ちになったレファレンスでした。

【主な参考資料】 ※()内は当館請求記号

- ・『たべもの起原事典』 岡田 哲//編 東京堂出版 2003 (R383.81/タベ)
- ・『日本食文化人物事典』 西東 秋男//編 筑波書房 2005 (R 383.81/ニホ)
- ・『図説コーヒー』 UCC コーヒー博物館//著 河出書房新社 2016 (619.89/ズセ)
- ・『ビジュアルスペシャルティコーヒー大辞典 2nd Edition』
ジェームズ ホフマン//著 日経ナショナルジオグラフィック社 2020 (619.89/ホフ)
- ・『コーヒー学入門』 広瀬 幸雄//ほか著 人間の科学新社 2007 (596.7/コヒ)

Q.

南部藩は百姓一揆の発生数が日本一といわれるが、そのような状況だったにもかかわらず、取り潰しにならなかったのはなぜか？

【キーワード】

南部藩(盛岡藩) 一揆 改易 藩政改革

【調査プロセス】

1. 盛岡藩や南部藩主関連資料を調査。
2. 藩政改革に関する資料を調査。

【回答】



森嘉兵衛著『南部藩百姓一揆の研究』によれば、近世～明治までの間に南部藩領内で起こった一揆の数はなんと 133 件！ 実は南部藩は日本一の一揆発生地域だったようです。お隣の伊達藩は 31 件なので、その差は歴然です。弘化～嘉永年間に起こった三閉伊一揆などは、南部藩の悪政に耐えかねた領民らが藩境を越えて強訴した、国内最大規模の一揆として知られています。

ではなぜそのような状況にもかかわらず、南部家は改易されなかったのでしょうか？ 前述の三閉伊一揆では、南部藩の支配を拒んだ領民たちが伊達藩に越訴、また前藩主の復位などを要求したため、幕府の政治介入を招く事態にまで発展しました。普通であれば改易されてもおかしくない大事件ですがそれには至らず、実権を握っていた前々藩主利済の謹慎で事が済んでいます。この理由について論文『盛岡藩における幕末藩政改革』では、江戸幕府老中・阿部正弘の手簡の内容から以下のように考察しています。

“失政の結果、大規模な一揆を招いた盛岡藩の不始末はとうてい許すべきものではなく、本来なら改易あるいは減封に相当するのを、元藩主利済の謹慎だけに留めたのはいかに寛大な処置であったかを言外におわせ、代償として盛岡藩に蝦夷地警備と海岸防御の一層の強化を求めた旨が述べられている”

“幕府としては、この一揆を契機に盛岡藩に対して非常に大きな恩を着せたわけであり、こののちの盛岡藩がずっと幕府寄りの姿勢を保たなければならないような状況を創出したのである”

どうやら、幕府にとって重要な政策である北地警備の一端を南部藩が担っていたこと、また恩を売っておくことで南部藩を佐幕派として押さえておきたい思惑、これらの事情が背景にあったためにあえて改易という判断に至らなかったものと考えられます。

なお、実は南部藩は一揆の他にも御家騒動などで何度か改易の危機に直面しています。例えば 28 代重直が跡継ぎを定めないまま没した時のことについて、『国別藩と城下町の事典』には以下のように書かれています。

“普通ならば南部家は断絶である。しかし、南部家は古い歴史を持つ家柄でもあり、前藩主利直の徳川家に対する忠勤があったために断絶を免れた。”

国替えされずに鎌倉時代から続いている数少ない大名家であるということで難を逃れ、なんとか明治時代まで存続できた、という側面もあるのかもしれません。

【主な参考資料】 ※ () 内は当館請求記号

- ・『森嘉兵衛著作集第 7 巻 南部藩百姓一揆の研究』森 嘉兵衛／著 法政大学出版局 1974 (K090/E 2/7-7)
- ・『盛岡藩における幕末藩政改革 三・完』岩本 由輝／著 山形大学 1988.1 (K205/I 3/1)
※『山形大学紀要(社会科学)第 18 巻 第 2 号』掲載
- ・『国別藩と城下町の事典』二木 謙一／監修 工藤 寛正／編 東京堂出版 2004.9(210.5/㌵)

県立図書館児童コーナーの活動をご紹介します。

すきなこと、みんなにおしえて!



児童カウンターに、好きな虫や電車のことを「聞いて!」と話しに来る子がいます。その楽しそうな笑顔を見て「もっと聞きたいな。それをみんなにも知らせたいな」と思い、この催事を企画しました。

1. 「すきなこと」なあに?

すきなことについて、3人の小学生に聞きました。本を見ながら、それぞれが大好きという「動物」「水の中の生き物」「探偵の本」について、熱心に話してくれました。

探偵の本が大好き!
これは、主人公がクラスメイト
と事件を解決するお話なの



イソギンチャクの
クイズが
おもしろいんだ



2. はっぴょう! 「すきなこと」

教えてもらった「すきなこと」をスタッフがレポートにまとめて、はりだしました。

すきなこと、みんなにおしえて!

『IQ探偵ムー』がだいすき!

ゆうかさん 小学6年生

●しつもん1 『IQ探偵ムー』シリーズはどんなお話?

転校生のムーが、いろいろな事件を解決するおもしろいお話です。
ムーの名前、本当は「夢羽」なんです。

●しつもん2 すきなところは?

ムーがクラスメイトと協力して、事件を解決して、頼りにされるところがすき!
クラスメイトのふたりは、あまり推理がとくいじゃなくて、ちょっとポンコツなの。☺

●しつもん3 これからどんな本を読みたい?

探偵のはなしとか、恋愛の本も読みたいです。

さんこうにした本
『IQ探偵ムー 飛ばない!? 移動教室』
上・下巻
せいさゆうきごう (J 913 / 7カ)

ゆうかさんは、IQ探偵ムーシリーズの本をたくさん読んでいて、くわしく教えてくれました。これからもおもしろい本を紹介してくださいね。 図書館スタッフより

感想をはつてね!

ここにみんなが知っている探偵のお話しの情報や

3. 「すきなこと」みんなも書いてね!

レポートを見た人が、コメントをたくさん貼ってくれました。

すきなこと、みんなにおしえて!

動物がだいすき!

さんま

●しつもん1 動物がすきになったきっかけは?

動物園に行ったことがきっかけで、動物に興味を持ったよ。

●しつもん2 特にすきな動物は?

動物は全部すきだけど、トラがいちばん!

●しつもん3 トラについてなにが教えてほしい?

トラはネコ科の動物です。

●しつもん4 これからどんなことについて知りたい?

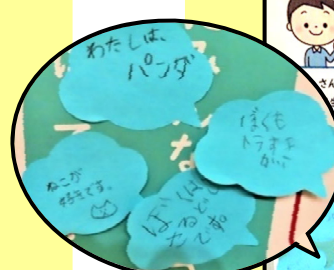
食物連鎖について知りたい。

さんこうにした本
『絶滅動物のひみつ1』
せいさゆうきごう (J 482 / 7カ)
『動物のひみつ』
せいさゆうきごう (J 489 / 7カ)

つばささんは、動物の本をたくさん読んでいます。実際に食物連鎖に関する本もあるので、ぜひ読んでみてください。 図書館スタッフより

感想をはつてね!

ここにみんなが知っている動物の情報や



パンダ、ねこなど
すきな動物を
書いたコメント

3人の「すきなこと」に関連する本の展示も行いました。



「世界一大きなネズミはカピバラだよ」などの情報を書いたコメントもありました。「すきなこと」を教えてくれた小学生と、コメントを貼ってくれた人が対話しているような、楽しい催しとなりました。

図書館揭示板

県立図書館からの連絡や告知をお届けします

第63回 岩手の読書週間 読書推進標語・手づくり絵本入賞者

岩手の読書週間は、2月1日～14日までの“春を待つ、雪解け前の静けさの中で、本に親しもう”というスローガンのもと、岩手県独自の読書週間として昭和35年に設定されました。この期間中は読書週間を全県的に展開し、読書普及活動を行なっています。

読書週間期間中の主催行事として、令和4年度「岩手県読書をすすめるつどい」が2月4日(土)にアイーナで開催され、読書推進標語と手づくり絵本の入賞者の表彰が行われました。

手づくり絵本の応募作品は、1月28日(土)～2月5日(日)まで県立図書館で開催した「第43回手づくり絵本展」で展示した後、一部作品を除き県内の図書館等で巡回展示が行われています。

1 読書推進標語入賞者

最優秀賞

『本閉じる 続きが気になり あと5分』

小松 聖桜 (紫波町立紫波第一中学校2年)

優秀賞

『ほんよめば おうちにいても だいぼうけん』

千葉 さくら (奥州市立前沢小学校1年)

『読書は夢と知識の二刀流』

山口 虎太郎 (二戸市立石切所小学校5年)

奨励賞

『あのね ぼくも その本 すきなんだ』

陳場 悠希 (滝沢市立滝沢第二小学校1年)

『ねるまえの すきないっさつ こもりうた』

及川 愛音 (奥州市立前沢小学校1年)

『ネットでは 得られぬ知識を 読書から』

荒谷 心奏 (二戸市立石切所小学校3年)

『「読んでみて」本がバトンの 心のリレー』

藤田 あかり (滝沢市立滝沢第二小学校4年)

『めくるたび きらきら光る 君の未来』

折居 潤希 (盛岡市立城北小学校6年)

『バスの中 本読む私と心 ゆれ動く』

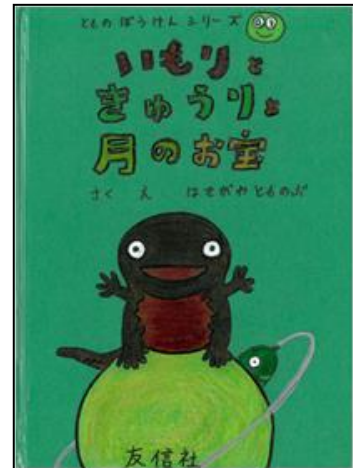
武田 かな (西和賀町立湯田中学校1年)

『今日も読む あの大好きな 1ページ』

遠野 希来々 (岩手県立盛岡視覚支援学校高等部1年)

<子どもの部>

- 最優秀賞** 『とものぼうけんシリーズ 09
いもりときゅうりと月のお宝』
長谷川 友信（北上市立北上中学校2年）
- 優秀賞** 『くまくんときつねくん』
松川 初（北上市立南小学校3年）
- 『お・す・す・め・の』
長谷川 野ノ花
（北上市立黒沢尻西小学校4年）
- 『かもんちようじゃものがたり』
松田 姫依、山口 紗和、伊東 優羽、
佐々木 菜柚（奥州市立水沢中学校3年）



<一般の部>

- 最優秀賞** 『おかあさんは まほうつかい』
小松原 健(花巻市)
- 優秀賞** 『マガンとアルマジロ Ver. II』
中尾 美知子(盛岡市)
- 『恋するてつびん アラレちゃん』
永田 望美(盛岡市)
- 『ふしぎなおまつり』
千田 成子(一関市)



<わかばの部>

- 最優秀賞** 『しょうとくんのだいすきなだいすきな
こんちゅうずかん』
谷山 翔人・谷山 実沙(葛巻町)
- 優秀賞** 『ちからづよさが „おら“ のじまん』
渡邊 雄嵩・渡邊 渚美子(葛巻町)



岩手県立図書館報

としょかん いわて

No.192

発行日 令和5年3月21日

編集・発行 岩手県立図書館